

4 野党合同街頭演説要旨（2018年6月9日）

皆さんこんにちは。日本共産党の県議会議員、斉藤信でございます。今日は、安倍政権による森友・加計学園問題における改ざん、廃棄、隠ぺい、虚偽答弁など、これまでなかったような異常事態に対する抗議の声を上げ、安倍内閣の退陣を求める4野党による合同街頭演説であります。

皆さん。森友学園問題では、6月4日に財務省の調査結果がやっと示されました。明らかになったことは、昨年2月17日の安倍首相の答弁「私や妻がかかわってれば、総理大臣も国会議員もやめる」という発言が、その後の公文書の改ざん、廃棄、虚偽答弁の契機となったということです。安倍首相を守るために、佐川当時の理財局長やその後の官僚の虚偽答弁が続きました。しかし、佐川理財局長がなぜ虚偽答弁を行ったのか、公文書の改ざんを指示したのか。財務省の内輪の調査では明らかにされませんでした。麻生財務大臣は「それがわかれば苦労せん」とうそぶきましたが、泥棒が泥棒を調べるような内輪の調査では、真相が明らかにならないことははっきりしています。

加計学園問題では、参議院予算委員会の国政調査権に基づく調査に、愛媛県が提出した文書が、極めて重大な事実を明らかにしました。2015年2月25日に、加計学園の加計孝太郎理事長が安倍首相と面談し、獣医学部新設の計画を説明したら、安倍首相は「そんな新しい獣医大学の考えはいいね」とコメントしたという事実です。この面談に同席していた柳瀬首相秘書官の資料提出の要望に応じて、3月24日、4月2日、6月と、柳瀬首相秘書官は、加計学園と3階も面会をし、獣医学部新設への具体的な指南をしたのであります。加計学園問題も、安倍ありき、加計ありきだったということがはっきりしました。あまりにも重大なことだったために、加計理事長と安倍首相との面談は誤りだったと、加計学園も言い出しましたが、それではその後のつじつまがまったく合わなくなるのであります。

皆さん。なぜこんな「うその政治」が横行しているのでしょうか。その根源には安保法制＝戦争法の強行の問題があるのではないのでしょうか。これまでできないといていた集団的自衛権まで認める「憲法解釈の改ざん」に踏み込んだ。このことから政治のモラル崩壊が起こったのではないのでしょうか。

安倍内閣は完全に行き詰っています。逃げ回るだけであります。徹底した真相究明を行って、安倍内閣の退陣を実現しようではありませんか。

みなさん。いま、朝鮮半島に平和の激動が起こっています。南北首脳会談に続いて、12日には史上初めて米朝首脳会談が開催されます。この首脳会談では、「朝鮮半島の非核化」と「朝鮮戦争の終結」が話し合われます。北東アジアの地域が「敵対から平和の地域」に変わろうとしています。ところが、安倍政権は今でも「圧力一辺倒」で蚊帳の外に置かれています。北朝鮮問題の平和的解決に背を向けて、憲法9条の改悪と5兆円を超える軍事費拡大に利用する安倍外交路線は完全に破たんしています。

皆さん。政治を変える力は、市民の怒りと運動です。さらに声を上げましょう。市民と野党の共闘をさらに前進させ、来年の参議院選挙で、自民・公明を過半数割れに追い込みましょう。共に頑張りましょう。